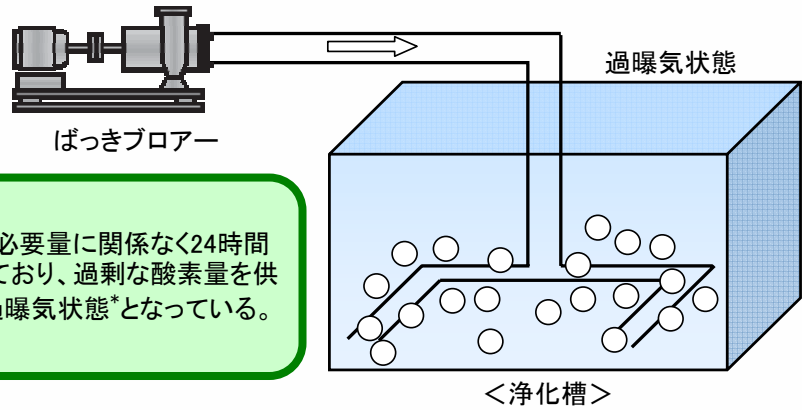


汚れた排水が流入していない場合は、ブロアを停止しましょう。

汚れた排水が流入していない場合は、曝気槽のブロアを停止することで、省エネを図ります。

対策例

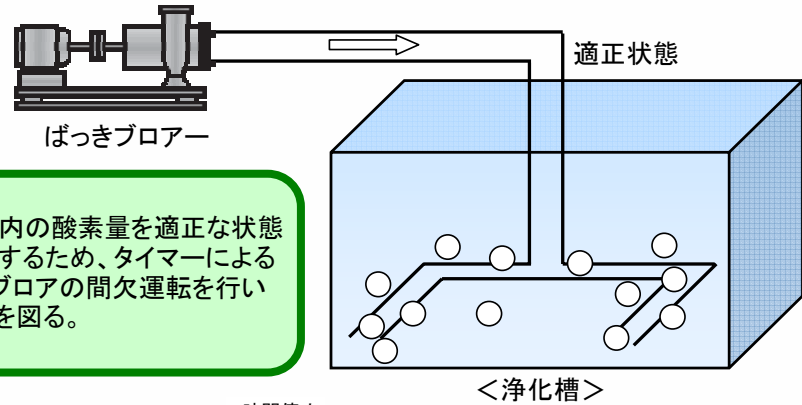
現状



酸素の必要量に関係なく24時間運転しており、過剰な酸素量を供給し、過曝気状態*となっている。

*過曝気状態とは…浄化槽内に大量の酸素が供給されている状態のことで、浄化槽内のpH値が低下し、微生物が増殖するには厳しい環境となるため、浄化能力が低下し、浄化槽の状態が悪化する。

改善後



浄化槽内の酸素量を適正な状態に維持するため、タイマーによるばっきブロアの間欠運転を行い省エネを図る。

省エネ対策のポイント

- ・ 浄化槽内のDO（溶存酸素）計による溶存酸素濃度の計測や浄化槽出口付近のpH値を確認し、浄化槽内の状態を把握することが大切です。
- ・ 一般的には、溶存酸素濃度であれば、2~3mg/L程度、pH値であれば7.0前後が最適です。過曝気であれば、DO値は高く、pH値は低くなります。